

眼科用 自動視野計 装置

仕様書

令和8年2月

沖縄県立宮古病院

## 目次

- (1) 調達物品導入の目的
- (2) 調達品の構成
- (3) 性能・特性等
- (4) その他（保守・据え付け等）

## 調達物品名：眼科用 自動視野計 装置

### 1. 調達物品導入の目的

ここ数年来、眼科での自動視野計による「視野測定」は従来にも増して重要な検査となってきた。「視野」は「視力」と並ぶ代表的な視機能であり、その検査によって多くの疾患の病変を知り、疾患の早期発見、病理の特定が可能となる。その背景には本格的な高齢化社会における眼疾患の多様化（白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、高血圧からくる動・静脈閉塞症、加齢性黄斑変性症等）が挙げられる。また、緑内障診断の場においては、病理管理の診断・経過観察などに欠かすことのできない検査手法として確立されている。以上の現状を踏まえ、本院眼科では医療施設、患者双方の利益を考慮した自動視野計の導入を希望する。

### 2. 調達物品の構成

自動視野計 一式

#### (1) 構成内容

2-1: 自動視野計本体	HFAⅢ/840	一式
2-2: 電動光学台		一式
2-3: プリンタ		一式

### 3. 性能・特性等

#### (1) 装置の概要及び条件等

- ① 薬事法に基づく（薬事認可が必要な機器のみ）医療承認を得ている装置であること
- ② 納入後、安定した稼動が出来ること
- ③ 本装置の設置に関する作業については、供給者の負担とする

#### (2) 性能・機能に関する要件

調達物品は、以下の要件を満たすこと

##### [1] 自動視野計

- 1-1: 検者の熟練度に左右されない客観的・再現性のある検査結果が得られること
- 1-2: 各種疾患に対応した検査プログラムの選択が可能であること
- 1-3: 検査結果を本体ハードディスクに記憶出来ること
- 1-4: データベース保護のため、ハードディスクの内容を外部保存媒体に記憶出来ること
- 1-5: 診断補助のための統計解析が臨床現場で行なえること
- 1-6: 1-5 に適応した統計解析ソフト STATPACⅡを標準装備していること
- 1-7: 緑内障性視野欠損の進行の有無を判別するソフトを標準装備していること
- 1-8: 操作は画面に直接指で触れて行なうタッチスクリーン方式を採用しており、初めて扱う被検者でも簡単に操作できること

##### [2] 電動光学台

- 2-1: 患者の体軀に合わせてテーブルの上下が電動で調節可能であること
- 2-2: 車椅子患者がそのまま利用できる設計を採用していること

2-3:長時間の視野検査に耐えられるよう姿勢が楽に保持できる設計を採用していること

ーオプションプリンタは以下の要件を満たすこと

2-4:検査結果は印刷可能であること

2-5:プリンタは自動視野計本体とU S Bケーブルにて接続が可能であること

2-6:プリンタ用紙が簡単に交換できること

#### 4. その他

##### [1]保証期間

通常の使用により故障した場合に限り、納入検査終了後1年間は保証期間として供給者は無償修理に応じること

##### [2]据え付け

2-1:納入作業は、病院の医療業務を考慮のうえ十分注意して行うものとする

2-2:納入にあたっては供給者が責任をもって行い、事故等に関して発注者は一切責任を負わない  
ので十分に注意するものとする

2-3:供給者は物品の取扱いに注意し、事故又は過失により損傷した場合はそれを補償する

2-4:供給者は物品設置の際に点検・調整及び試運転を行い、使用者に十分説明の後引き渡すものとする

2-5:搬入・設置・配線及び調整等に要する費用は供給者の負担とする

##### [3]その他不明な点は、担当者の指示に従うものとする

以上